



大阪府中央会情報連絡員報告

府内中小企業の景況

2022年
6月

1. 6月のDIは、全9指標のうち8指標が低下、主要3指標は、売上高10ポイント低下、収益状況8ポイント低下し業界の景況は18ポイント低下している。
2. 6月末時点では、製造業では5指標のDIが低下し、また非製造業では7指標のDIが低下している。

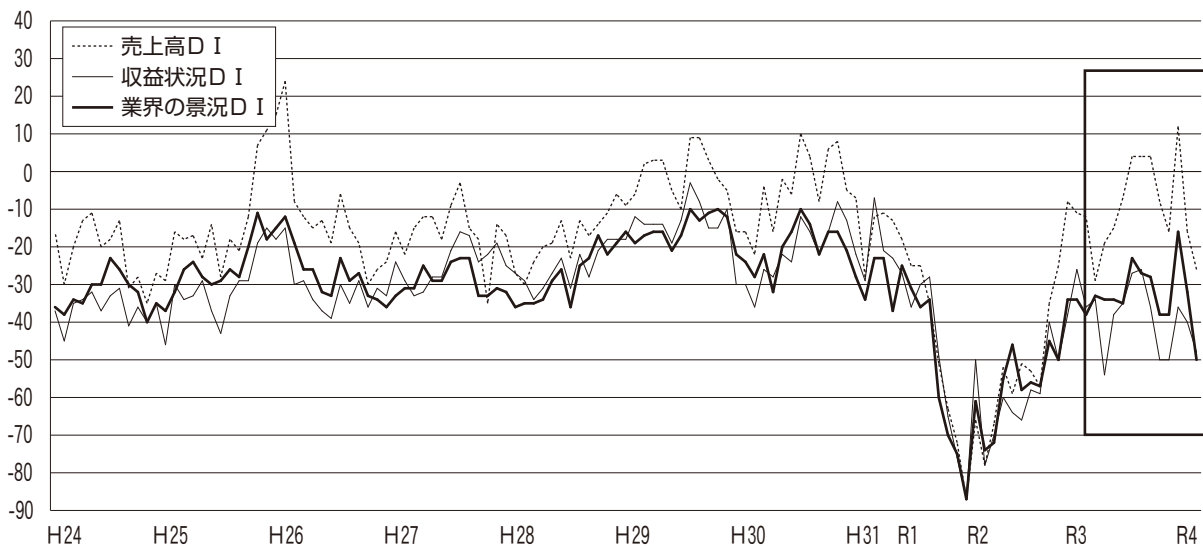
景況天気図

令和4年 6月分	全産業			製造業			非製造業			30以上 快晴
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	
売上高	△16 	△26 	↓ -10	△20 	△15 	↗ 5	△10 	△44 	↓ -34	10~29 晴れ
在庫数量	16 	18 	↓ 2	13 	14 	↓ 1	25 	33 	↓ 8	9~△9 うす曇り
販売価格	16 	13 	↓ -3	20 	14 	↓ -6	10 	11 	↑ 1	△10~△29 くもり
取引条件	△16 	△22 	↓ -6	△20 	△22 	↓ -2	△10 	△22 	↓ -12	△30~△49 雨
収益状況	△40 	△48 	↓ -8	0 	0 	→ 0	△30 	△56 	↓ -26	△50以上 大雨
資金繰り	△12 	△26 	↓ -14	△20 	△29 	↓ -9	0 	△22 	↓ -22	
設備操業度	△13 	△29 	↓ -16	△30 	△29 	↗ 1				
雇用人員	△4 	△4 	→ 0	0 	0 	→ 0	△10 	△11 	↓ -1	
業界の景況	△32 	△50 	↓ -18	△34 	△46 	↓ -12	△30 	△56 	↓ -26	

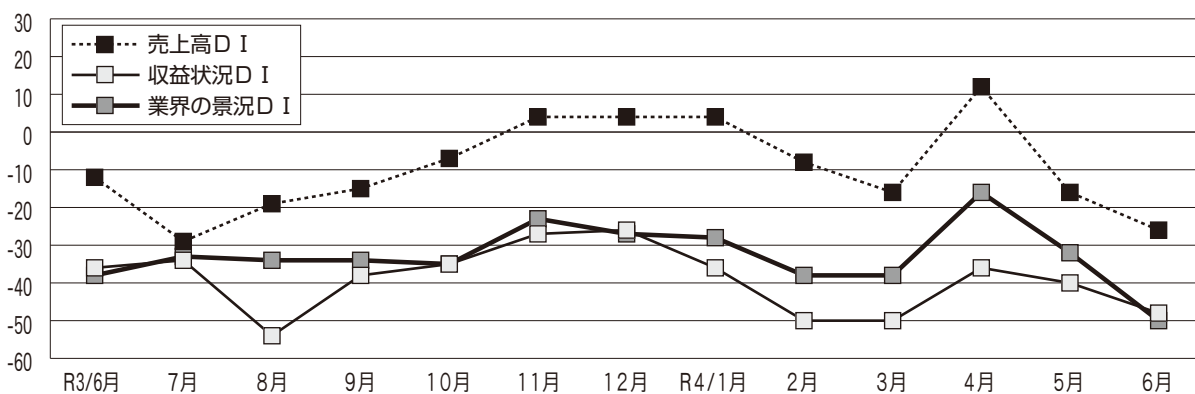
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H24年6月～R4年6月のD Iの推移



全産業 R3年6月～R4年6月のD Iの推移



業種別概況 (6月分)

【製造業】



水産食料品製造業

原油高の高騰により、運搬費や一部魚価高騰に伴い、取引条件や収益状況は悪化している。



綿・スフ織物製造業

原材料価格の上昇や長引くロシアによるウクライナ侵攻、そして急速な円安とさまざまな要因が絡み合う物価上昇により、業界の景況はさらに厳しさを増している。



木材加工業

前年同月と比べて売上高は増加した。材木業界では、需要が増えてきていると思われるが、業界全体としては依然厳しい状況である。



古紙収集加工業

新聞古紙の発生は、前年同月で比較しても厳しく、また白物古紙もロシアによるウクライナ侵攻の影響により大幅な減少となっており、業界全体としての景況は悪化している。

**製本業**

原油価格の高騰に伴い、運送費等の経費増で製品単価来週に転嫁できないなど取引条件は悪化している。

**シール印刷業**

組合員企業は、食品・電気製品・化粧品・物流・医薬関連等の下請けが大部分を占めており、原油価格の高騰や製造コストの上昇で価格転嫁が進まない状況が続いており、取引条件は悪化している。

**セルロイドプラスチック製品製造業**

前月比18%減、前年比25%減となるなど、売上高や収益状況は一段と厳しさが増している。

**石鹼洗剤製造業**

コロナ禍の反動減に苦しんだ石鹼は、販売数量で前年を上回るどころまで回復し、合成洗剤は洗濯用、台所用、住宅家具用共に前年数字を上回り順調に推移しているが、原材料への高騰により業界の景況としては悪化している。

**建築金物製造業**

燃料価格の高騰、原材料費や物流コストの上昇等により、経営環境は依然として厳しい状況にある。さらにウクライナ情勢の見通しが不透明であることから、景気回復の兆しが見えてこない状況である。

**産業機器製造業**

この数か月同じ状態が続いているが、半導体を中心とした部材・部品不足が顕著になっている。完成品にならない仕掛品が増え、在庫が増加、資金繰りが悪化している。業界の景況感は極めて悪くなっている。

**印刷製本機械製造業**

機材・機器の納入遅延による半製品の在庫数量は増加している。

【非製造業】**衣服・身の回品卸売業**

急速な円安から仕入れコストが上昇。一方で販売価格は過当競争の中、転嫁ができない状況が続き、業界の景況は悪化している。

**二輪自動車小売業**

一部の人気車種を除き、それ以外の車種の納期は改善されてきた。しかしながら、来店者数の減少など需要が低下し、業界の景況は悪化している。

**地質調査業**

業界としては景気が安定している。

**警備業**

コロナ禍の影響はあるものの徐々に社会が動き出し、業界も回復傾向にあるが、慢性的な警備員不足が問題となっている。

**建設業**

原材料、資材等の高騰、また原材料の入荷遅れにより顧客対応に影響を及ぼし、業界の景況は悪化している。

**タイル工事業**

4月以降、材料費の値上がりが続き、販売価格への転嫁が進んでおらず、業界の景況は悪化している。

**貨物運送業**

前年同月に比べ引越件数と販売価格がやや減少した。引越資器材や燃料価格の値上げは続いている中、転嫁が進まなくなっているため収益状況は悪化している。